

『現代世界思想史序説 上』への補い(2), 外国の部

倉 田 稔

も く じ

はじめに 第1次大戦の結果 ロマノフ家の最後 シルビオ・ゲゼル
20世紀の技術 1929年世界大恐慌 ナチズム ナチズムに関する本
アンネ・フランク ムソリーニ ポプリスモ, ペロニスモ 20世紀の大事件

は じ め に

これは、拙書『現代世界思想史 上』(丘書房)の補いであり、そしてすべて外国の部である。

第1次大戦の結果

第1次大戦の結果、2千万人の死者が出た。資本主義社会の安定的発展が疑われ、人間の理性に不信が寄せられ、進歩の思想が信じられなくなった。これらの思想が打ち砕かれた。資本主義が世界戦争を行ない、各国民が塗炭の苦しみに会ったことで、人々はショックを受けた。シュペングラーは『西欧の没落』で、ヨーロッパとその文化が減じた、と論じた。

戦後に、ウィルソンはアメリカ大統領選挙で負けてしまい、世界政治から退場した。列強がウィルソンの立てた梯子で2階に上ったら、梯子がはずされてしまったというわけである。気が付いた時、アメリカ、ドイツ、ソ連が国際連盟に入っていなかった。

この戦争（WW1）は、重工業・大銀行による、おくれた植民地競争の実施であった。ドイツは、トルコを狙い、ベルリン・ピザンツ・バグダッドの線を確保しようとした。これで1890年に、ロシアをフランスに追いやった。

第1次大戦後、レマルクの小説『西部戦線異常なし』が出た。大戦中に起きたロシア革命で、民族独立の影響が出た。当面、東ヨーロッパで実現することになる。

ロマノフ家の最後

ニコライ2世（在位 1894-1917、生没年 1868-1918）は、アレクサンドル3世の長子で、ロマノフ家最後の皇帝となった。1613年にミハイル・ロマノフが帝位について、ロマノフ朝が成立して以来、ほぼ300年にわたってロマノフ家がロシアで帝位についていた。そこでニコライ2世の治世中、300年記念が行なわれた。ニコライ2世は1891年、皇太子時代に日本を来訪し、巡査・津田三蔵に切りつけられ負傷した（大津事件）ことがある。彼はその後皇帝になり、専制政治を望んだ。ニコライは意志薄弱で、皇后アレクサンドラに左右され、晩年には政治にも無関心になった。第一次大戦では、自ら最高司令官になった。そして内政は皇后とラスプーチンにまかせた。アレクサンドラ皇后は、ドイツ出身で、ヘッセン大公女だった。この時代、ラスプーチンが権勢をほしいままにした。ラスプーチン（1872-1916）は、トボリスク県の農民出身で、各地の修道院を遍歴後、貴族と知り合い、帝室に近づいた。彼は、皇太子アレクセイの不治の病（血友病）を治癒して、皇帝と皇后の信任をえた。それゆえ、1914年から16年にかけて絶大な権力を振るい、国政に関与した。彼は大臣の任免・罷免までとりしきった。だが、1916年12月17日、右派反対勢力のドミトリー大公、ユスポフ公爵らによって暗殺された。

1917年2月革命で帝政が崩壊し、3月2日にニコライ2世は退位宣言をした。その後、家族はシベリア・トボリスクへ送られた。夫妻、4人の皇女つまり、オリガ、タチアナ、マリア、アナスタシアと、皇太子アレクセイであった。10

月革命後、エカチェリンブルグ(旧スヴェルドロフスク)へ移され、家族とともに銃殺された。1918年7月16日に家族全員銃殺されたというのが定説である。責任は、地方ソヴィエトかレーニン政権か、のどちらかであり、処刑した理由は白衛軍の存在であった。

だが、皇帝は銃殺されたが、皇太子は病死し、皇后と4人の娘がベルミに護送され、さらにモスクワ方面に向かって、消息を絶った、という説がある。19年に、1人の女性がベルリン運河に飛び込んだ。それは末娘アナスタシアである、ともされ、その後、生きていたともされる。¹⁾

シルビオ・ゲゼル

ゲゼルは経済学者。1862年に、ベルギーで生まれた。1886年、アルゼンチンへゆき、商売で成功した。スイスで独学し、ミュンヘン・レーテ共和国の蔵相となった。その後は、ベルリンで活躍する。主著は、*Die Naturliche Wirtschaftsordnung durch Freiland und Freigeld*. Berlin 1920. である。最近流行の地方通貨論に影響を与えた人でもある^{1a)}。

20世紀の技術

1908年にフォードが、自動車の大量生産システムを作っていた。1920年代は、アメリカの大量消費時代の開幕であった。20世紀は自動車の世紀でもあった。

1931年に、発明王トマス・エジソンが亡くなった。彼は、アメリカ資本主義の良い面、アメリカ社会の健全な面を代表する人物であった。エジソンは、生

1) ユル・プリンナー、イングリッド・バーグマン主演、映画『追想』で、アナスタシア姫は有名となる。参考、サマーズ、マンゴールド『ロマノフ家の最後』中央公論。

1a) ゲゼルの翻訳は、一部削除だが、相田慎一訳で、一つある。
Silvio Gesell, *Das Geld wie es sein soll und sein kann*, (所収、『専修大学北海道短期大学紀要』33号, 2000年12月)

涯、人類の便利さのために日々活躍した。彼は千数百の発明をし、特許を取った。だが彼の正当な努力は、相当部分が、アメリカの諸財閥に収奪された。

19世紀が蠟燭の時代であったとすれば、20世紀は電灯の時代となった。エジソンの白熱電灯の発明は、電灯時代のきっかけとなった。これは人類の生活時間の観念と生活様式を変えた。

また20世紀は、電気、電信、飛行機、機関銃、自動車、戦車の時代を切り開いた。家庭電化製品が売れ、アメリカがそれを代表した。これは、すぐ後におきる大恐慌の原因になるのだが、一方で、第2次大戦後のアメリカの繁栄のさきがけであった。

文化時間は短縮した。だが人間殺傷能力が増大した。また20世紀半ばには、人類の不幸の刃・原子力を握ることになる。

1929年世界大恐慌

ウォール街のキングといわれたジェシー・リバモアは、株屋につとめ、鉄道株で100万ドル以上儲けた。銀行家の息子のジョセフ・ケネディは、ラジオ株で儲けた。一般投資家が株式投資に参加してきて、ブローカーズ・ローン借りて株式投資をする人も急増した。1929年、アーヴィング・フィッシャー教授は楽観論を述べた。9月3日が株価の最高であった。だがケネディはその後全ての株を売り、撤退した。リバモアは、株価情報分析家を採用し、情報を得ていた。そこでイギリス中央銀行が金利を大幅に上げるという情報を得た。それで資金がイギリスへ流れた。J. P. モルガンの大統領あてレポートは景気については楽観論だった。

だが暴落が始まったのだった。10月24日（木）朝10時に取引所が開いた。25分後、GM（ゼネラル・モーターズ）に大量の売りが出た。驚いた5千人の投資家がウォール街に売りにきた。そこで警官隊が出動した。リバモアは空売りで儲けた。銀行連合は買い支えに回った。そのため相場は回復したが、そのニュースが全国に早く広く伝わらなかった。そのまま3時に、取引所が終了した。

30億ドルが1日で失われた。リバモアは数百万ドル儲けた。10月29日には、下げ幅が最大となった。この恐慌で1300以上の銀行が倒れ、全国で4分の1の労働者が失業した。リバモアはその後失敗し、自殺した。ケネディは、その後ルーズヴェルトの大統領選挙費用を出し、イギリス大使となり、ヨーロッパの相場で儲けた。アメリカは国際貿易＝輸入を縮小した。安値になった株を、ロックフェラーやモルガンが買い占めて、後に大権力を持つことになる。

ナチズム

ドイツ革命(1918年)は、まったく急な急進的な、上からの革命であった。これが、ワイマール国民会議を導いた。革命は、ビスマルク憲法の根本的改造に帰着した。予期せぬ、強要された、民主主義であった。(Bracher)

1933年にナチス(=国民社会主義、以下、ナチスと略)が権力を獲得したとき、賠償を払う必要がなくなっていた。外交的自由もあった。外交は、ヒトラー(Adolf Hitler)が一手に引き受けた。目標は、イギリス(ゲルマン)・イタリア(ファシズム)と結び、フランスとソ連を敵視し、オーストリアを併合することだった。ナチスが求められ、国民に期待されたのは、失業の蔓延などの経済問題であった。ヒトラーの上昇理由は、ドイツ人の戦後処理の不满、大恐慌、日本と同じく持たざるドイツであったこと、つまり原料をえられないことだった。経済帝国の必要があつたのである。

ドイツ共産党の弾圧のきっかけになったドイツ国会放火事件は、ファン・デア・ルッベが1人ですべてをした。しかしヒトラーは、共産主義者が火をつけたと信じ込んだ。そして蜂起を恐れたゆえに、例外法を導入した。

ヒトラーは、1933年4月7日に、反ユダヤ立法を通した。ユダヤ人と反ナチに対してである。しかし一部をのぞいた。3代前までにユダヤ人がいるばあいユダヤ人になり、それをナチスがきめるのだった。そして公職から締め出した。

1933年7月14日、ナチ党は唯一の政党となった。そして一元化(Gleichschaltung, 均制化)を行なった。つまり自治体を認めないのであり、

(国家と州の)中央集権化をした。こうしてナチ指導を全国民に浸透させようとした。これがナチ革命であった。

ヒトラーは、政治的反対派を沈黙させ、系統的に迫害した。現実には敵がいなくなると、敵だと勝手に想像したものを迫害した。つまりユダヤ人である。強制収容所をSSによって作らせ、ここに放りこんだ。おもに迫害されたのはドイツのユダヤ人である。全体的国家には敵が絶対必要だった。

ヒトラーは、全体主義と国家の權威を守る絶対的権力が必要だった。内閣に無制限の立法権を与え、行政と立法の分立を消滅させた。そして総統が国民の決定にしばられないようにした。

ドイツは一党独裁制となり、1933年11月に、国連を脱退した。また軍縮會議を脱退する。ヒトラーは、再軍備を狙うのだった。1934年8月、ヒンデンプルク大統領の死で、ヒトラーは大統領および総理大臣の位置につくのである。

ヒトラーは、総統像をローマ皇帝に求めている。

ヒトラーは、1934年6月30日に、殺人・肅清、弾圧を行う。競争相手のSA隊長・レームは、「社会主義」を真剣に受け取り、第2革命を狙ったし、国防相を望んだ。SAを国防軍の代わりにせよと要求した。ヒトラーは危険を感じ、肅清したのだった。1934年8月、ゲーリングはSAを解散させた。当時ヒトラーとレームは、行進やパレードでも一緒に立っていたし、これまでは、ヒトラーはまだ独裁者ではなかった。ドイツ人は指導者を求める(マレーネ・ディートリヒ)。ドイツ人は誰かに指導をさせたがる(レニ・リーフェンシュタール)。

1934年、ヒトラーは、ドイツ・ポーランド不可侵条約を結んだ。1935年に、一般兵役義務をしいた。これは再軍備の第1段階であった。それに対して各国は、相互援助条約を結んだ。1934年のナチス党大会を、レニ・リーフェンシュタール監督は、映画「意志の勝利」にとった。これはパリで金賞を貰った。大会のテーマは雇用創出と平和と思えた。

ナチスの思想的代弁者ローゼンベルグは、国家よりもナチ運動が上であり、国家はナチ生活哲学の道具である、とした。国家は、道德概念でも絶対的理念の実現(ヘーゲル)でもなく、人種的民族の従僕であり、目的でなく手段だと、

ヒトラーは考えた。生存の最高目的は、国家・政府の維持でなく、民族の維持であると言う。この考えが、1934年6月、血の粛清の後、1934年9月の党大会で実践化された。

党によって国家が決定される、とシュミットは語る。ナチスの理論はばくぜんとしていた。ナチ党員は党首に絶対服従するという、指導者原理が出来上がった。しかしこれで、ナチズムはキリスト教精神の敵になった。個人の良心よりもヒトラーと党が優位したからである。教会も迫害された。そこでキリスト者の反ナチ精神が生まれた。ヒトラー暗殺計画も、すべて失敗したが、いくつも起こされた。例えば、後述の事件以外に、エルザー事件、トレシュコー事件などなどである。一方で、経済が復興し、国民は国家に忠実になった。

ヒトラーは、1935年、ニュルンベルグ法を通した。これでユダヤ人のあらゆる権利を奪った。ドイツ人とユダヤ人との結婚も禁じた。また、ヒムラーの親衛隊を強化し、ゲシュタポ長官はラインハルト・ハイドリヒになる。

1936年、ベルリン・オリンピックが開かれた。ヒトラーはオリンピックは嫌いだったし、興味がなかった。「黒人が勝って、面白いはずがない、彼は国粋主義者だから。」(リーフェンシュタール)

ヒトラーが、1937年秋以来、戦争の準備をしたことは確実である。1937年、ヒトラーの計画(ホスバツハ大佐覚書)がある。それは、「ドイツの人種的共同体を確保・維持・拡大する」「そのために『国土の狭さの解決』による生活圏のために、力の道しかない」の発言である。国防軍は、いつもためらった。そこでヒトラーは、国防相、陸軍総司令官を解任したし、ヒトラーは事実上権限を握った。外交も人事移動もそうだった。

ヒトラーは、1937年11月の秘密演説で、チェコスロヴァキア粉碎の決意を語った。チェコスロヴァキアのズデーテン・ドイツ人の自治要求は激しい、そしてドイツはそれを支援する、というものであった。1938年、ヒトラーはオーストリアを併合する。1938年5月30日に、ヒトラーは、チェコ問題で国防軍へ秘密指令を出した。

1938年、英仏独伊は、ミュンヘンで、ズデーテン地方のドイツへの割譲=接

収案——民族自治による——協定を認めた。この9月のミュンヘン協定を、イギリスのあらゆる新聞は、『レイノルズ・ニュース』を例外として、賞賛した。ヒトラーはしかし、初めからチェコ全部を奪うつもりであった。1938年10月、ヒトラーは「チェコスロヴァキアの残りを片づける」秘密指令を出した。1939年に、チェコスロヴァキアをヒトラーに委ねる文書に、チェコスロヴァキア大統領ハーハに署名させた。ドイツ軍はすぐチェコスロヴァキア全土を占領した。これは民族自治を破る決定的転換だった。

1938年、ナチスはユダヤ人虐殺を始めた。1939年5月、独・伊軍事同盟が成った。ドイツは、ダンチヒなどを返還要求した。英・仏・ソ連・ポーランドは、提携交渉に失敗し、英は、ポーランドに肩入れをした。英仏とドイツの、ソ連を味方に着ける獲得競争が始まった。だが、1939年8月3日、独ソ不可侵条約がなった。ドイツは、2正面作戦を避けたし、避けることができた。ソ連が西欧を選べば、または西欧がソ連を選べば、戦争は起こらなかつたのだ。8月5日、英・ポーランド相互援助条約がなった。

ドイツは、ポーランドを侵攻した。1939年9月1日であった。宣戦布告はなかった。しかしすでにイタリアは、1935年にエチオピア侵略していたし、1932年、中共は対日宣戦をしていた。電撃戦によって、ヒトラーは西ポーランドを占領した。その後、入植地にドイツ人のみ送った。

ヒトラーは、フランス攻撃をし、征服する。ヒトラーのユダヤ人虐殺は、1940-41年に計画的になり、アイヒマンに国外移住計画を作らせた。

ヒトラーの勝利は、列強が戦争に気乗り薄と見たこと、小きざみな戦争をしたこと、国際連盟が——有効でない——を無視したこと、ロシア革命で列強がドイツをソ連の防波堤と見たこと、列強と左翼がナチズムの本質を分からなかったこと、ソ連の反ドイツ呼掛けを列強が無視したこと、スターリンがソ連の政治家・軍部を狂信的に粛清し、弱体化させいたたこと、スペイン市民戦争での失敗（1936-）に独伊は援助したが、英・仏・ソは援助しなかつたこと、にある。

ヒトラーは、少しずつの一連の小戦争によって問題の解決を計画した。全く

戦争をしないうまく切り抜けようとした。大戦争を準備しているふりをして実際にはそうしなかったところに、ヒトラーの政治戦略の本質がある。ヒトラーは軍備を誇張した。彼の再軍備の動機は、赤軍への恐怖であった。1935年に政策の重点に若干の変化があった。1936年春までドイツの再軍備はほとんど神話にすぎなかった。²⁾

ヒトラーのヨーロッパ大陸支配がなり、彼はイギリス攻撃をした。これは失敗に終るのだが、独ソ戦のカモフラージュでもあった。1940年に、ヒトラーはソ連攻撃を説いた。バロバロッサ作戦である。これは、ソ連を葬り、その民族を根絶するものであった。まずモスクワを占領すべく準備をした。三方から攻め入った。1941年6月に、宣戦布告なしでソ連国境を越えた。ドイツ軍はモスクワのほとんど手前まで侵略した。ドイツの機甲部隊の名将グデーリアン将軍の指揮によってであった。彼はフランス戦でも有能さを発揮していた。しかしモスクワ攻撃のドイツ軍の前に、ソ連軍は、ねばった。そしてドイツの攻撃は予定より遅れさせられた。そこにロシアの厳冬がやってきたのである。ドイツ軍はソ連側に反攻されて、退却するのだった。その後、レニングラード（今のペテルブルグ）攻防戦が始まった。レニングラード市民は、ドイツ軍に包囲されて飢餓状態におちいった。だがこれを辛くもしのいだ。1943年にはヒトラーは、クルスク戦を計画した。ドイツは、ドイツ史上最大の攻撃を準備した。クルスク戦は7月5日に始まった。ドイツのクリューゲ元帥とソ連のジューコフ元帥が戦いを指動した。ドイツは奇襲を考えたが、ソ連に準備されてできなくなった。だがソ連の防衛線は2箇所破られた。ヒトラーは、「勝利にあらざれば死である」と演説した。ドイツは全予備軍を投入した。ソ連は不利になった。大戦中の最大の戦闘プロホフカの戦いが起きた。その後、スターリングラードの独ソ戦で、ドイツは敗北した。ヒトラーはこれで、ドイツ国とドイツ国民とに嫌気がさしたのだった。彼によれば、強い民族は勝つのであり、ドイツが負けることは弱い民族であることになる。この時点から、彼は戦略的には自暴自棄

2) Burton H. Klein, Germany's Economic Preparations for War, 1959.

になった（『ヒトラー最後の10日間』）。ドイツ民族が減んでもよいと考えるのであった。

連合軍がシシリア島に上陸した。イタリアで、ヒトラーとムソリーニの会談が行われた。イタリア軍は休戦を考えたが、ムソリーニは、ヒトラーにそれを言えなかった。参謀部とムソリーニは矛盾した。これでムソリーニはイタリア国王に逮捕されるのであった。ヒトラーはこれを聞いて、ムソリーニ救出を命令した。彼はイタリアを占領しようとも考えた。軟禁状態のムソリーニは、ドイツの部隊に救出された。だが、彼はもうヒトラーに従属せざるをえなくなった。

スターリングラード戦で、クリューゲ元帥はソ連撤退を主張した。しかしヒトラーと、取り巻きのカイテルら幹部は、陣地の死守を厳命した。これは戦術的な失敗だった。ソ連は、オリョール、その他の市を奪回した。ドイツ軍はヒトラーの命令にもかかわらず退却し始めた。9月、ソ連軍はドニエプル河に進撃し、渡河に成功し、キエフを奪回した。

ここで、1943年11月、連合国のテヘラン会談が持たれ、第二戦線を作ることが話された。それをスターリンが要望した。ルーズヴェルトは同意し、チャーチルはユーゴスラヴィアからの上陸を主張したが、スターリンとルーズヴェルトのいうフランスからの上陸で決着した。チャーチルのユーゴに上陸とは、ソ連牽制の意味であった。チャーチルは戦後のことを考え過ぎると、ルーズヴェルトは言う。連合軍は、1944年5月に第2戦線を作る、と決めたヒトラーはこれを考慮にいれなかった。

ソ連は、ウクライナを取り戻そうとした。1944年6月、ソ連は白ロシアを攻撃した。白ロシア・パルチザンと共に、ポブルイスク、ミンスクを解放した。ここで大量のドイツ兵捕虜が出た。

一方、ドイツ国内では、ベック、ゲルデラー、クリューゲ、シュタウフェンベルグらの軍部が、ヒトラーを殺して軍が実権をえるという試みを敢行した。だが失敗して鎮圧された。これはラステンベルグで総統の会議で爆発物で暗殺しようというものだった。ベックが新首相になる予定であった。反乱側はゲッ

ベルスの逮捕に向かうが、ヒトラーが生き残ったのでできなかった。

ソ連軍は、ポーランドへ向かった。ワルシャワへ向かう時、ポーランド軍が加わった。ヨーロッパ諸都市の解放が進んだ。このころからヨーロッパでのバルチザン闘争が広がった。1945年1月、ソ連軍は大攻撃をかけた。

1945年2月に、ヤルタ会談が行なわれた。英・米は、ソ連よりも、ベルリンへの到達が遅れた。ソ連はベルリン攻撃を考えた。ドイツでは、グデーリアンが辞任させられた。一方、ルーズヴェルト大統領が死んだ。ソ連は、4月、ベルリン攻撃をした。兵は、地下鉄にも入った。そこへヒトラーは水門を開けさせる命令を出した。そこには病院もあるのに、であった。ドイツ民族は消滅すべきと、ヒトラーは考えるに至った。死の直前、ヒトラーは結婚した。だがすぐ、新妻エバ・ブラウンを薬殺した。そしてヒトラーは銃で自殺したとされる。4月30日であった。ドイツは結局、敗戦に追いやられるのであった。

ヒトラーは、党を国家よりも上においた。ナチズムという思想を国家や民族よりも大切にした。

5月1日、ドイツ国会議事堂にソ連旗があがった。ドイツ参謀総長が、休戦の交渉に来た。デーニッツとゲッベルスの新政権を作るというのだった。しかしソ連は無条件降伏を要求した。ゲッベルスは死なざるをえなかった。

第2次大戦の死者は、フランス52万、イタリア40万、イギリス32万、アメリカ32.5万、チェコ36.5万、ユーゴスラビア160万、ポーランド602.8万、ドイツ970万、ソ連、2000万であった。

ナチズムについての本

ドイツ・ナチズムの人類学的経験を踏まえて、いくつかの文献が生まれた。F. ノイマンの『ビヒモス』(みすず書房)は、ナチズムを全面的に分析した優れた書である。シャイラーの『第三帝国の興亡』(全5巻創元社)は、ジャーナリストとしての著者が描いたナチズムの大規模な物語である。また、実際にヒトラーの強制収容所に閉じ込められて生活した心理学者フランクルは、『夜

と霧』で、強制収容所の悲惨な地獄のような捕虜生活を描いた。ここで、何か精神的な目的を持たないと死んでしまうこと、どんな組織にも良い人と悪い人がいることを語った。なお、児島のぼる『ヒトラーの戦い』(全10巻 文春文庫)やテイラー『第2次世界大戦の起源』(中央公論 1977)もある。ヒトラーについて最も詳しいのは、フェスト『ヒトラー』(新潮社)である。

アンネ・フランク (Anne Frank)

1929年、アンネ・フランクがドイツで生まれた。数年後、1933年1月に、ヒトラーが政権を掌握した。1933年4月7日、ナチスは、反ユダヤ立法を可決した。

フランク家は、1933年夏、ドイツのフランクフルトを出た。父オットー・フランクは、裕福な実業家だった。妻エーディットは、フランクフルトで育った。彼らはまずアーヘンへ行った。1934年に、オランダへ行き、3月、アムステルダムの大きな上品な家に住んだ。フランクは、ベクチン製造の会社を持っていた。当時オランダに14万人のユダヤ人がいた。1934年、アンネは幼稚園に入り、1935年に小学校に入った。

1935年に、ニュルンベルグ法が通過した。1938年に、オーストリア併合がなされた。同時に1938年に、ユダヤ人虐殺が起きた。1940-41年に、ヒトラーは計画的になり、アイヒマンにユダヤ人国外移住計画を作らせた。

1939年9月1日、ドイツは、ポーランドを侵攻した。1940年、コリーン・オランダ首相は、安心宣言を出した。しかし、1940年5月、ドイツが攻撃し、オランダがドイツに占領されたのである。オランダ女王は、イギリスに亡命し、「自由オランダ」をつくった。そして中立宣言をした。オランダ軍は降伏した。ザイス・インクヴァルト (=オーストリア・ナチスの首脳)が、オランダ総督に任命された。

フランク家の父オットー・フランクは、トラフィース商会とコールン商会を経営していた。そこに勤める女性、ミーブ・ヒースは、ウィーン出身で、ドイ

ツ国籍だった。彼女は、ナチ青年団に加入を勧誘されるが、拒否した。さて7月2日令、つまりユダヤ人届出令が出された。7月、一家は、ユダヤ人登録をされる。書類に拇印し、写真をとられた。

ミーブは、警察に呼び出しをうけ、旅券が失効しているのに、ウィーンへ戻れと言われた。そこでオランダ人の恋人ヘンクが、彼女に結婚を申し込んだ。1941年7月に結婚し、ミーブはオランダ人となった。こうしてオーストリアへ行く必要がなくなった。

1941年2月、最初のユダヤ人狩りが起こされた。それに抵抗して、ユダヤ人らは3日間のゼネストを行ない、それに対し、参加者が銃殺された。

父は、2つの商会を部下に譲った。アンネは、小学校を卒業し、ユダヤ人中学校へ入学した。

1942年4月に、ユダヤ人は、ユダヤ人章、ダビデ星をつけろと命令された。それに加えて、6月30日に、ユダヤ人へ禁止令が出た。ホテル、図書館、映画館、レストラン、カフェへ、ユダヤ人は出入り禁止とされた。こういう状況で、一家は潜伏をきめた。それをミーブが世話をすることにした。この直前、アンネは、1942年6月12日、父から日記帳を贈られた。13才の時だった。

1942年7月5日、姉マーゴットは、16才になっていたが、強制キャンプへの出頭命令が出た。これをきっかけに、翌日6日、一家は潜伏を決行するのである。マーゴットは、ユダヤ人には禁止された自転車にのり、隠れ家(フランクの持っていた商会の上階)へ行った。そこはプリンセン・フラフト263〔番地〕で、運河沿いにあった。残りの一家3人は、すぐあとで行った。そこは家から4キロ離れていた。地下組織は、配給切符を手配した。一方、ユダヤ人についての密告には5ギルダの礼金が払われることになった。

アンネは日記を大事にした。もう一家族、ファン・ダーン家がこの隠れ家に加わった。夫妻と息子ピーターであった。次いで、1人の歯医者デュッセル氏も加わった。計8名となった。アンネは、日記帳を書き尽した。その後、紙片に書き、その後、金銭出納簿に書いた。

1943年1月、会社に泥棒が入った。そして親しい八百屋が捕まった。6月6

日、連合軍がフランスに上陸した。もうすぐ解放されそうだった。

アンネの日記は、Aテキストがあり、はじめの日記である。ついでBテキストがあり、これは小説風になっている。アンネは、小説家になろうとし、日記を小説風に書き直そうとしたのだった。書き直しが終わる前に捕まった。8月1日で日記は終わっている。1944年8月、家族は見つかってしまう。

8月4日、午前11時、秘密警察の事務所に密告の電話があった。警察官カール・ジルベルバウアーがそれを受けた。彼は、1938年にオーストリアで秘密警察に入ったのだった。当時オランダでは、ユダヤ人は全部逮捕すべしという命令が出ていた。11時ころ、彼は4人のオランダ・ナチを引き連れて、ピストルを持って、隠れ家へ行った。すでに密告者もそこにいた。銃を持ったオランダ人が店の戸を開けた。家族はこうして捕まるのだった。彼らは隠れ家には2年1カ月いた。ジルベルバウアーは、写真よりもアンネは美しい子だった、と言う。フランクのかつての会社の社員数名も連行され、ミーブは連行されなかった。その後、警察の自動車きて、家具類を持ち去った。また金目になるものは没収した。アンネの日記は金目になりそうもなく、床に捨てられた。彼らは囚人護送車でゲシュタポ本部へ連行された。日記帳を見つけた掃除人から、ミーブはそれを受け取った。

オランダでは潜伏者が1万人いた。半分がドイツ軍に、半分が密告で、捕まった。オランダの3/4のユダヤ人が殺された。当初14万人のユダヤ人がオランダにいたのだった。

ミーブは、募金を集め、賄賂で、フランク家を救おうと考えた、だがナチに拒否された。かの会社員のコープハイス、クラールも、オランダ強制収容所へ連行された。

1944年、家族は、逮捕後、別々にオランダ北部に送られた。8月、バステルボルグへ送られ、ここで家族は再会ができた。そして9月3日、アウシュヴィッツ（ポーランド）へ護送され、そこで男女が分けられた。ファン・ダーン氏（＝ペーターの父）は、病気になり、10月にガス室へ送られた。父フランクは、12月に病院へ送られた。1945年1月、ソ連の砲撃が近づいた。妻（＝アンネの

母)は、1945年冬、1月6日に過労で病死した。ここで1万1千人の囚人を全部ドイツへ移せと、命令が出た。だが父は病気で残った。1月27日、アウシュヴィッツはソ連に解放された。その直前に、ペーターはアウシュヴィッツから移されるが、それら囚人たちは、停車場までの強行軍でほとんど死んだ。

時期はさかのぼるが、1944年10月30日、ファン・ダーン夫人、マーゴット、アンネが、ベルゲン・ベルゼン(ドイツ)へ送られた。姉妹は父母と別べつになった。1945年2月に、2人はチフスにかかった。マーゴは、2月末に、ベッドから落ちて死んだ。アンネは、3月初め、つまりその数日後、それに落胆して衰弱死した。

1945年4月30日、ヒトラーは自殺し、ドイツは無条件降伏をした。5月、オランダは解放された。父は、アムステルダムへ帰った。父は、密告者は知りたくない、とミーブに語った。8月に郵便が来て、アンネとマーゴの死を知らせた。密告者はオランダ人で、倉庫係ファン・マーレンが容疑者になった。しかし掃除婦・その妻レナ・ブラデレンだと、ミーブは考えている。

アンネの日記については、父は、Aテキスト、Bテキストから、Cテキストを作った。1947年に、Cテキスト「隠れ家の家」を出版した。“Het Achter-huis”, 1947, である。これは、初めあまり売れなかった。アメリカで劇と映画になって、有名になった。父は、日記の削除した5枚を、友人に渡した。そしてその公表を止めた。そして父は死んで行った。その部分は、妻エーディット論と、アンネが性に目覚める所とであった。アンネの日記は38カ国語に訳された。³⁾

ムソリーニ

ムソリーニは、初めイタリア社会党の編集長だった。ローマ進軍で首相になった。イタリアは国王制であった。彼は議会の反対派議員を暗殺もした。ファ

3) 伝記 ミュラー『アンネの伝記』文芸春秋。;シュナーベル『アンネのおもかげ』みすず書房。

シスト党の一党制を作った。

ムソリーニはエチオピア攻撃をした。彼の理想は、「再びローマ帝国を」であった。その息子2人は飛行士になり、1人は事故死した。

ムソリーニは、ヒトラーのオーストリア併合を牽制し、ブレンナー峠へ軍隊を出すと言う。ミュンヘン会談で、彼は平和を、と言う。だが第2次大戦に参加を決定した。

ムソリーニの娘は、チアノ伯、後の外相、と結婚した。戦争中、会議でムソリーニが罷免され、娘婿・外相チアノも反対派に回った。こうしてバドリオ元帥の内閣ができた。だがチアノは後に処刑され、日記を残すことになる。

ムソリーニは、ドイツに救出され、ミラノで政府を作った。亡命途中で、ゲリラに捕まり、愛人とともに射殺され、死体は吊された。

ムソリーニが会議で罷免されてから、彼の没落が始まったのだが、こういう事はヒトラーの場合には起きない。ヒトラー方が独裁力が強い。またイタリア・ファシズムは国王制のもとで行われた。そのためドイツ・ナチズムと少し違う。またムソリーニは浮気をした。ヒトラーは独裁者になってから、エヴァ・ブラウンだけと同棲しており、奇妙な禁欲性があった。ただしヒトラーは、私生活では女性を蔑視していた。

ポプリスモ、ペロニスモ

アルゼンチンは独立していたが、急進的民族主義に担われ、非共産主義体制をとり、資本主義の枠内で発展をめざした。1946年から55年まで統治したペロンの体制が、ポプリスモ（人民主義）という政治体制の代表例であった。

エバ

1919年5月7日、アルゼンチンの片田舎で、マリーア・エバ・イバルグレンが、ロス・トルドスのはずれのあばら屋で、私生児としてうまれた。5人兄弟

の末子だった。彼女の母は、ある地主ドゥアルテの愛人だった。1926年、チビルコイで、父が死に、彼女の家はドゥアルテと名乗れた。だが1月8日の葬式には出られなかった。子供らは妾の子だったからである。母はその後、地方政治家の愛人となり、田舎町フニンに住んだ。エバは中学を出て、女優になろうとした。この町で、タンゴ歌手マガルディと愛し合った。最初の男だった。1936年、エバは、彼にくっついて、ブエノスアイレスへ出た。だが彼は家族もちだった。エバは酒場などで働いた。才能も美貌も魅力もなかったが、名だけの女優となった。チョイ役で舞台・映画に出た。だがしだいに美しくなった。エヴァを好きになった男が出資して、ラジオ番組を提供してもらった。週一回のメロドラマだった。これでエバは有名になった。雑誌に写真が出るようになった。エバは、実力者と知合いになろうとやっきになるのであった。

ファン・ドミンゴ・ペロン

ペロンは、1885年、ロボス町のはずれに生まれた。父は、南ヨーロッパの農民の子孫で、イタリア系だった。母はインディオの血の混じった田舎娘だった。ペロンは、小農場主の子として生まれた。5才の時、パタゴニアに移住し、家は、牧場を経営した。彼は、たくましく育った。父が死に、母は、ブエノスアイレスの軍事学校へ、彼を入れた。射撃、フェンシング、げんこつで、トップとなった。ペロンは、堂々とした体躯で、教養があった。個性的魅力と説得力があった。ペロンは、イタリアに勤めた時、ムソリーニを見て、独裁者になりたいと思うのだった。彼は、ブラジルで秘かに結社「統一将校団」を作った。そして書記長になった。これは全国組織になる。

労働政策を担当した。ペロンは、労働者に対する大胆な保護政策を展開し、クーデタでも大きな役割をはたした。

エビータ (Evita) ・ペロンとペロン

エバは、その新閣僚=通信大臣インベルト大佐の愛人になった。これでラジオのオーナーが、エバの月給を3倍にした。1944年に、サンファン地震が起きた。ペロンの主宰した募金慈善バラエティ・ショー=コンサートで、1月22日、エバは、フワン・ドミンゴ・ペロンに紹介され、「お役に立てる」と言って近づいた。彼女は、彼が最高実力者だと知っていた。その日、2人は秘かに別荘に行くのだった。彼女は通信大臣を捨てたのである。エバとペロンは、40才近く年齢が違っていた。エバは、ペロンの若い愛人を彼の家から追い出した。彼女は女としては、スゴ腕であった。

ペロンは、労働組合を従わせた。政府が、対ドイツ断交、対ドイツ宣戦をしたので、ペロンらはクーデタを起し、ファレルを大統領にした。ペロンは国防相になり、そして副大統領にもなった。

ペロンはエバと同棲した。エバは、政治で民衆の力がかえりみられていないことに気づいた。ペロンは、国内の賃上げを実施した。労働組合を自分の労働組合に編入する。彼はナショナリストだった。アルゼンチンでは食肉労働者が最大だった。彼らは、ストライキを起し、これをペロンは解決した。賃金の規準制を廃止し、大幅賃上げをし、再雇用をし、再賃制をつくった。ただし、ペロンの体制はファシスト的色彩があった。

だがここで政変が起きた。ペロンは失脚し、逮捕された。ペロンは、軍隊を去った。エバは、そこで若手軍人、労働組合を動員するのだった。ペロンは、釈放された。

エバはペロンと結婚した。エバ26才だった。これは美貌のゆえであった。彼女は、エバ・ペロン、またはエビータとなる。後のミュージカル「エビータ」のヒロインである。エバは、映画の準主役になったが、女優としての演技はともだめだった。

大統領選挙戦が行なわれた。労働組合から絶大な支持をえたペロンは、1946年6月4日、大統領になった。労働者、下層国民を労働党に組織し、この体制

を固めた。ペロンはイギリス産業を放逐した。

エバは、国民にエビータと呼ばせた。「特権階級のもつ富をとりあげて皆さん貧民の手に与える」と語るのだった。エバは、上流婦人の慈善団体の会長にさせてもらいたかった。しきたりとしては、大統領夫人がこれに就任するのだが、依頼がこないのだった。その会長は大地主夫人であった。エバは、上流階級、軍人に嫌われた。彼女は、下層出であり、情婦、娼婦、成り上がり者、と言われた。

エビータは、ヨーロッパ旅行をした。スペインでは、フランコ総統に勲章をもらった。イタリアでは、法王に謁見したが、勲章はもらえなかった。エビータは、「虹の高みにたつ」と、語った。彼女は、イギリスには行かなかった、実際は行けなかった。1947年8月に、帰国した。

エビータは、婦人選挙法案を可決させる。これはアルゼンチン初の快挙であった。そして彼女は、婦人ペロン党をつくり、その総裁になった。ついで社会救済財団=エバ財団を作った。寄付金は国内中から強制してさせた。賃金などからも出させた。かの上流団体の慈善団体の予算を、政府から出させなくさせた。また彼女は、私生児を認める法律も作った。

エビータは、貧民、弱者に目をむけ、労働組合を作り、初めて女性参政権を与えて、「女性の味方」と言うのだった。彼女は、食糧、家、毛布を、貧民に与え、子供にはおもちゃを与え、「エバ財団」から入れ歯を送った。これらの事業では、面倒なので帳簿はつけなかった。

1951年4月、エバは、副大統領になってくれ、と言われた。労働総同盟(C.G.T.)が支持し、ペロンも初めは支持した。エビータは、今まで何をするにも権利がないと言われてきたので、本当は副大統領になりたかった。だが、軍人が反対した。他方で、民衆は支持した。ペロンは、軍部を考慮して、彼女を副大統領に任命するのをやめた。それに、彼女が癌にかかったことを知り、それを告知した。そのためエビータは、副大統領立候補を辞退した。ペロンが地位を保っているのは、エバのおかげだった。11月11日は、大統領選挙であった。ペロンは当選し、大統領になった。

1952年5月1日、エビータは病床から立って、大演説をした。反ペロニスモに対して闘うというものだった。7月26日、エビータは、癌で亡くなった。エビータは夫に、「貧しい人々を裏切らないで」と遺言した。彼女はアルゼンチンの大地主の体制に敵対したのである。夫は、エビータの遺体に防腐剤を使って、保存した。エビータは死ぬ前に、「私は帰ってくる、何千、何百万となって帰ってくる」と言った。人々は、彼女を「聖エビータ」と呼んだ。映画館では映画をとめて、彼女の死のニュースをその映画館で知らせる有様だった。皆が、悲しんだ。

エビータの死後、ペロンは並の軍事独裁者になった。1955年、ヴァチカンがペロンを破門した。そして革命が起きた。1955年9月、軍部の反ペロン派がクーデタを起こし、政権は崩壊した。ペロンはパナマへ亡命した。結局スペインへ行くのだった。1955年、将軍ペドロ・アランゴール大統領が、アルゼンチン陸軍に、エビータの遺体を隠せと命令した。陸軍情報部長モリ・ケーニヒ大佐が、郊外のビルの一室へ隠そうとして車でゆくと、その前のビルが爆発した。車からおりと、ローソクと花が並べられていた。遺体の場所を変えても、必ず、ローソクと花が飾られた、という伝説がある。そこで大佐は、部下の家におくことにした。部下はある日、奇妙な物音がしたので、拳銃をうつと、それは自分の身重の妻だった。大佐は、エビータは生きている、と話すようになり、78日後に解任された。1957年、政府は遺体を国外に運びだし、船でボンへ、そしてローマへと、ヨーロッパ各国を回った。遺体はミラノに送られた。1969年に、アランゴール大統領は、エビータの場所を言わなかったので、誘拐・暗殺された。

1973年に、デモがおき、エビータを返せという声があがった。ペロンが再び政権に呼ばれることとなった。遺体は、スペインのペロンに戻された。5月、ペロニスタ政権が18年ぶりに樹立され、1973年10月ペロン自身が大統領に復帰した。だが彼は、1974年7月に死去した。その後、その夫人が大統領になった。1974年11月17日、エビータの棺は帰国した。19年ぶりにアルゼンチンの人々はエビータに再会したのだった。だが1976年3月、軍部がクーデタを起こし、権

力を掌握した。⁴⁾

20世紀の大事件

2000年に、20世紀の大事件を、ある放送局が日本人からアンケートをした。それらは、1位から20位まで、次であった。(括弧内は、年号そして説明)日本人へのアンケートであるから、日本的である。

1. 太平洋戦争。
2. 原爆が落とされたこと。
3. アポロ11号の月面着陸 (1969. 7. 20)。
4. 日露戦争。
5. 第二次大戦。
6. 第一次大戦 (6300万人が戦う)。
7. ベルリンの壁崩壊 (1989. 1. 9) そしてドイツ統一 (1990)。
8. 阪神大震災 (1995. 1. 17. 震度7, 6400人の死者, 25万家族の被災が発生した)。
9. ロシア革命。
10. NY株価暴落 (1929. 10. 24)
11. 関東大震災 (1923. 9. 1, M7.9)
12. 東京オリンピック=アジア初 (1964)
13. ソ連消滅。
14. 日本国憲法 (1946. 11. 3 公布)
15. 朝鮮戦争。
16. サリン事件 (1995)。
17. ライト兄弟の飛行機 (1903)。
18. 二・二六事件。

4) バーンズ『エビータ』新潮文庫, など。

19. バブル崩壊 (1990年株価下落, 1991年地価下落)。
20. 満州事変。